



武蔵野赤十字病院

〒180-0810

東京都武蔵野市境南町1-26-1

TEL 0422-32-3111

発行 総務課 広報係



認定看護管理者

看護部副部長 河上 章恵

日本看護協会認定看護管理者制度は、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することをめざし、一定の基準にもとづいた看護管理者を育成する体制を整え、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献することを目的としています。

当院には、この認定看護管理者が4名います。看護副部長として看護部に所属し、看護部の教育・人事・業務・医療安全に関する業務に携わっています。

これらの機能が将来に向かってより発展的に改善され、新たな仕組みづくりをするために、日々院内を奔走しています。特に、院内活動で重要視していることは、スタッフ及び看護管理者への支援です。今後も、医療の中で看護の持つ役割が充分発揮できるよう、時代の変化とともに取り組んでまいりたいと思います。

インフォメーション

医療補助事業により
臓臓機器を整備しました

このたび当院では財団法人JKA競輪公益補助事業により、心臓専用の血管造影（シネアンギオ）装置の更新整備を行いました。



本機器は心臓・循環器疾患・末梢動脈疾患の診断治療に不可欠なこの大きな放射線機器です。今回の整備では周辺機器の更新も行い、より機能

を高めることができました。

今後はカテーテルアブレーション、運動原形形成、運動造影を含む心臓カテーテル検査など、高度な医療を必要とする患者さんに対し、分解能に優れた本機器の使用による治療成績の向上が期待されます。また、診断治療中の患者さんや術者、看護師の被曝量も低減されることとなりました。

文責：循環器科部長 尾林 徹



がんばってます

院友会 和太鼓部 てんてけ
HCU 看護師 藤田世也

“ドンドコドンドコ”月曜の夜、病院裏の体育館で太鼓の音が響きます。



和太鼓部“てんてけ”の練習は業務終了後から始まります。部員は看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・事務と、様々な院内のスタッフが集まり、年齢層も幅広く、皆で和気あいあいと太鼓を叩いています。



主に、院内のイベントや武蔵野市の文化祭などで演奏をし、地域の方々と交流を大切に活動しています。

周りからは“太鼓をやっているなんてめずらしいね”とよく言われますが、力強く太鼓を叩く事でエクササイズやストレス発散にもつながり、何より皆で一つの音を奏でられることは院内で大切にされるチームワークにつながっていると実感しています。

今後も“開魂一打”、皆様にバワフルで元気な音をお届けできるように活動していきます。



撮影日：2月24日午後

場所：院内三階 実習

お詫びと訂正

2011年冬号No.27 新年のあいさつの中で、「国際赤十字赤新月社連盟」とするところを誤って「世界赤十字連盟」と掲載致しました。ここに訂正するとともにお詫び申し上げます。

アイ
Eyeむさしのは患者さま向けの情報誌です
ご自由にお持ちください



お食事も大切な治療のひとつです。患者さんの退院後のお食事に対する不安を少しでも軽減できるようして食べることに喜びを感じていただけるような、わかりやすい説明を心掛けております。

栄養課 管理士
岩田 薫

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供する
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図る
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進める
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続する
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくる



さらにパワーアップ

院長 富田博樹

武蔵野赤十字病院は、この4月にさらにパワーアップ致しました。具体的には、多摩地区の肝臓疾患治療のセンターとなるよう都から指定を受け、都区内を担当する虎ノ門病院と共に、都民の肝臓の病気の診断・治療・ご相談・病気の知識や治療法の普及など幅広い役割を果たすよう肝疾患拠点病院に指定されました。これは今までの当院の肝疾患に対する診療の実績が評価されたものです。消化器科が中心にお世話をしていますが、もちろん外科・放射線科を初め当院の総力を挙げてこの役目をしっかりと果たしてゆきます。また研修医や大学院生の多い大病院を除くと、都内でも医師の数の多きでは5本の指に入る当院ですが、4月からさらに約20名の医師が増員されます。心臓血管撮影装置や、MR I・CT等も昨年末に最新鋭のものに更新されました。

多くの診療科の部長達が様々なメディアの名医ランキングに名を連ねています。難しい病気の診断と治療の総合力をさらに高めるため、上記の各科の医師増員に加え、膠原病・リウマチ内科の診療体制を強化致します。

皆様のかかりつけ医、近隣の病院や行政と協力し、皆様が健康で安心して暮らせる地域作りを目指して参ります。



新看護部長あいさつ

看護部長 若林福美

はじめまして。本年4月1日から武蔵野赤十字病院の看護部長を拝命いたしました、若林福美と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。

昨今の疾病の中心は、「がん」であり、糖尿病等の『生活習慣病』になっています。医療者に求められるものは、感染性の病気に対したような迅速さというよりも、患者さんが病気とともにうまく生活していくこと、病気を持ちながらも有意義な人生を過ごすことのお手伝いをすることです。当事者である患者さんと医療チームが、話し合いながらより良い方向に進めていくことです。

私たち武蔵野赤十字病院の看護師は、患者さんに一番近い存在として、患者さんの生活を支える立場として、どうしたらよいか、ともに考え、実践していく者でありたい、と思っています。患者相談窓口では患者さんの相談に応じていますし、入院中あるいは外来におかかりの時も、「こんな些細なこと」と思わず気軽に声を掛けてください。当院には専門医も多くおりますし、いろいろな医療関係職種が働いています。看護師が架け橋になって解決に結びつくと、励みになることもあるかと思います。皆様が、健康に生活するお手伝いをさせていただきます。

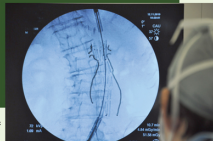
診療科のご紹介

心臓血管外科の取りくみ



田崎医師

古崎部長



心臓血管外科では、心臓、大動脈、末梢血管にまつわる、主に成人の後天性疾患に対する外科治療を中心に日々診療にあたっております。循環器内科と連携をとり、患者さんに最適な治療を施せるように常日頃から心がけております。

社会全体の高齢化と、高血圧、脂質異常症、糖尿病、喫煙などを原因とする動脈硬化性疾患の増加に伴い、私たちが診療の対象とする疾患も多岐を極めています。心臓に関する治療としては、狭心症などを対象とする冠動脈バイパス術、弁膜症に対する人工弁置換術、弁形成術となります。

冠動脈バイパス術は、高齢者、様々な合併症を抱える患者さんにもなるべく侵襲を少なく受けていただくよう、心臓を動かしたままの心拍動下手術を約9割以上に施行しております。弁膜症手術に関しては、特に僧帽弁閉鎖不全症に対して、ご自身の弁を温存して行う弁形成術を第一選択として施行しております。自己弁の温存は術後、心機能の維持、抗凝固薬の減量など患者さんに大きなメリットがあります。

大動脈疾患に関しては、大動脈瘤、解離性大動脈などに対する治療が主となっております。急性大動脈解離に関しては、一刻を争う治療であるため、24時間緊急手術にも対応しております。また大動脈瘤に対する治療としては、従来の人工血管置換術に加え、ステントグラフト治療も昨年より開始しております。ステントグラフト治療は、基本的に足の付け根の切開のみで治療できるため、これまで高齢、合併症などを理由に手術が受けられなかった方にも治療の可能性が広がっております。



胸部大動脈瘤に対するステンドグラフト手術

末梢血管治療に関しては、主に閉塞性動脈硬化症に対するバイパス術が中心となっており、循環器内科の血管内治療との組み合わせで、患者さん一人一人になるべく侵襲を少なく治療を受けていただくよう心がけております。

私たちは、一人一人の患者さんを大切に、地域、社会全体に貢献できるよう、日々診療に取り組んでおります。